



## 冬の園芸研修始まる

10月5日(木)、令和5年度秋田市冬期農業研修の開講式が秋田市園芸振興センターで開かれました。来年3月まで研修を受ける4名が出席。鈴木善彦所長は「生産コストの高騰や大雨などで市内農業の情勢は厳しいが、自身の農業経営を拡大し、市民に多くの新鮮な農産物を提供してほしい」と研修生に呼び掛けました。

同研修は複合経営を目指す人や通年で野菜や花きを生産したい人などが対象で、これまでに47名が修了しました。4名は園芸品目の冬期間の栽培技術を習得するため、栽培実習や視察研修などに取り組みます。

❶ 冬期間の生産振興への激励を受ける研修生



## 稲刈りに小学生が歓声

米の収穫シーズンを迎えた9月、管内の小学校の学習田でも待望の収穫を迎えました。秋田市立飯島南小学校の5年生は19日(火)に稲刈りを行い、刈り取りや、脱穀のためコンバインに運ぶ作業に汗を流しました。

児童は稲をしっかりと掴み、鎌でいねいに刈り取ると笑顔を見せました。夢中で刈り進んでいく子や、収穫した稲を落とさないように両手いっばいに抱える姿なども見られました。

収穫後には「5月に植えた稲がこんなに大きくなってびっくりした。初めてだったけれど上手にできた」と話しました。

❶ 刈り取った稲を運ぶ児童



## 秋田市産ダリアの出荷最盛

当J Aの特産のひとつであるダリアが、9月から10月にかけて出荷の最盛期を迎えました。今年は大雨や酷暑などが生育に大きく影響を及ぼしましたが、県オリジナル品種「NAMAHAGE」シリーズの新品種「NAMAHAGEエモ」などをはじめ、過酷な気象経過を乗り越えたダリアが出荷されました。

10月4日(水)から22日(日)にかけては関東の生花店13店舗で秋田市産ダリアフェアが開かれ、色とりどりのダリアが多くの人々の目を惹きました。

❶ ダリアを検品するJA職員



## 新米収穫感謝セールで102トン販売

9月30日(土)に四ツ小屋低温倉庫と船越低温倉庫で、10月9日(月)に上新城低温倉庫と太平低温倉庫で収穫感謝セールが開かれました。全量1等米の今年産「あきたこまち」の玄米を、特価で販売。多くの人が新米を購入しようと長蛇の列を作り、合計販売量は3403袋の約102トンに上りました。

会場内はドライブスルー方式で、来場者の車が次々と敷地内に入り入れました。午前8時の開始を前に早朝から多くの車が並んだため、レーンを増設するなどして対応し、計1135台の来場者に販売しました。

❶ 新米を購入する人の車でにぎわう倉庫内(上新城低温倉庫)